

1. グランドデザインとは

1. 1 グランドデザインの背景と目的

府中市在住の
ある親子の会話



息子(高校生)「年配の人は、昔は良かった、まちは賑わっていたというけど、本当にそうなの？」



父(50代)「わしが子どもの頃は、まちなかにもっと子ども達があふれていて、駅前や商店街にもたくさんの店があって人がたくさん行きかっていたなあ。」



母(40代)「そうね、今よりも働く場所が多くて、夕方は仕事帰りの人で賑わっていたし、休日にも人通りが多かったわ。」



娘(20代)「じゃあ、グランドデザインで、昔のようなまちを目指そうっていう内容なの？」



父(50代)「そうじゃないよ。これまでの府中市の魅力を大切にしながら、これからの時代は、どんなまちを目指せばいいか、グランドデザインで描いていこうってことだよ。」

■グランドデザインの背景

府中市ではこの10年ほど、中心市街地活性化の取組として、道の駅や府中学園等の建設や歩いて暮らせるまちづくりに関連した道路、広場などの整備に取り組んできました。これらの取組の効果として、商店街等では移住者による空き家・空き店舗等を活用した新たな店舗等へのリノベーションや地域住民が中心となった官民連携の取組による石州街道・出口地区の歴史的な街並みと調和した修景が進んでおり、次の時代に向けて、まちが変わるための“新芽”が芽生えはじめています。

これらのまちづくり活動の新芽を一過性のものに終わらせることなく、まち全体に展開し、成長させていくことが重要です。

また、グランドデザインは、ヒト・モノ・情報等を周辺部から中心市街地に集積し、活性化させるための役割と集積した活力を効果的にまち全体へ展開させ、まちの全体の成長につなげる役割を併せ持つ計画です。

一方で目まぐるしい社会の変化やそれにとまなう課題への対応に追われる中、府中市が持つ本来の価値や魅力が置き去りにされてきました。人口減少等、時代の転換期にある今だからこそ発想を変え、これまでのように中心市街地を活性化させるなどといった社会課題を解決するだけではなく、たとえ人口が減少しても、何年経っても変わらない府中市の個性・価値・強みを重視した目指すべき将来像とその実現方策を描くグランドデザインを策定することとしました。

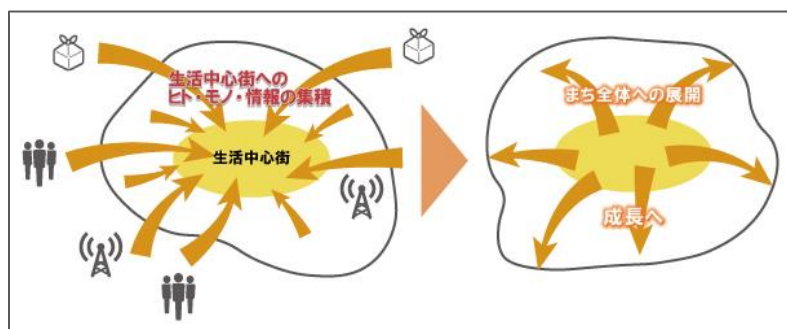


図 グランドデザインの機能発揮のイメージ

■グランドデザインの目的

グランドデザインでは、府中市が持つ魅力、歴史的・産業的価値を再認識し、住んでいる場所への愛着や自負心を育み、まちづくりに参加する機運を高めます。

また、多くの活動や取組により魅力を増した府中市を市外に向けてPRし、人やビジネスを呼び込むことで“来てみたい”“住んでみたい”と思ってもらえるまちを目指し、市民、企業、まちづくり団体と行政、さらには府中市に関係する人々が目指すべき将来像に向かって、方向性を共有し、それぞれの役割を担いながら着実に取組を進めていくことを目的とします。

具体的には、市全体を支える中心市街地・生活中心街において、市街地周辺部や隣接都市等とのつながりを意識しつつ、概ね20～30年後の将来に人々が楽しく過ごしている様子をイメージし、その目指すまちの将来像に向かって、それぞれの場所でどのような取組を行えば良いのかを示しています。

■府中市グランドデザインの構成（グランドデザインの見方）

グランドデザインでは、府中市全域から見た市街地周辺部とのつながりや隣接都市等とのつながりを意識しつつ、概ね20～30年後の中心市街地・生活中心街の将来像を描きます。

その将来における市民にとっての過ごし方や、訪れる人々・受け入れる人々の過ごし方といった2つの視点から目指すまちの姿を具体的にイメージし、そのイメージと現状のギャップや強み（今後活かせるような要素）を浮き彫りにした上で、まちづくりの戦略目標や取組方針を明らかにしています。最後に、官民によるマネジメントの仕組みや考え方を整理し、まちの将来像の実現に向かって、着実に取組を進めていく構成としています。

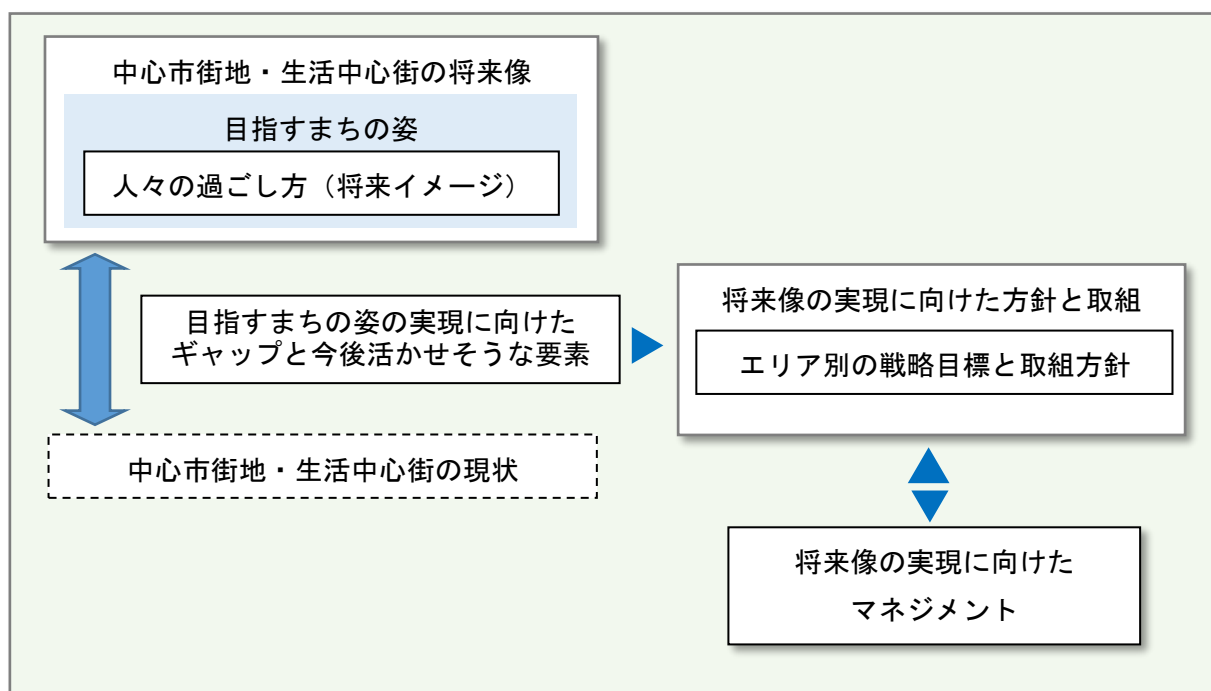


図 グランドデザインの構成（グランドデザインの見方）

1. 2 目的から導く4つのキーワード

本計画の目的を踏まえ、以下の4つのキーワードを念頭に置いた将来像を描きます。

やっぱり大好き、府中 ～シビックプライドの醸成～

- ・府中市民が、府中市の魅力、歴史的・産業的な価値を再発見・再認識することで、たくさんの自慢できるところがあるという府中市に対する誇りや、府中市をより良くしていこうとする当事者意識・自負心を育むことで、府中市を一旦出ても、また戻ってきたくする意識の醸成を目指します。

府中のイイところ。売り出し中！ ～シティセールス～

- ・市民の方々が楽しく快適に暮らせるまちであることを発信することはもちろん、府中市が持つ多彩な産業や歴史あるまちなみなど、本来ある魅力の発掘と新たな価値を生み出すことで、来街者を呼び込み、移住を促進し、ビジネスを呼び込むシティセールスにつなげていくことを目指します。

手をつなぎ、知恵を寄せ合う官民の輪 ～官民連携～

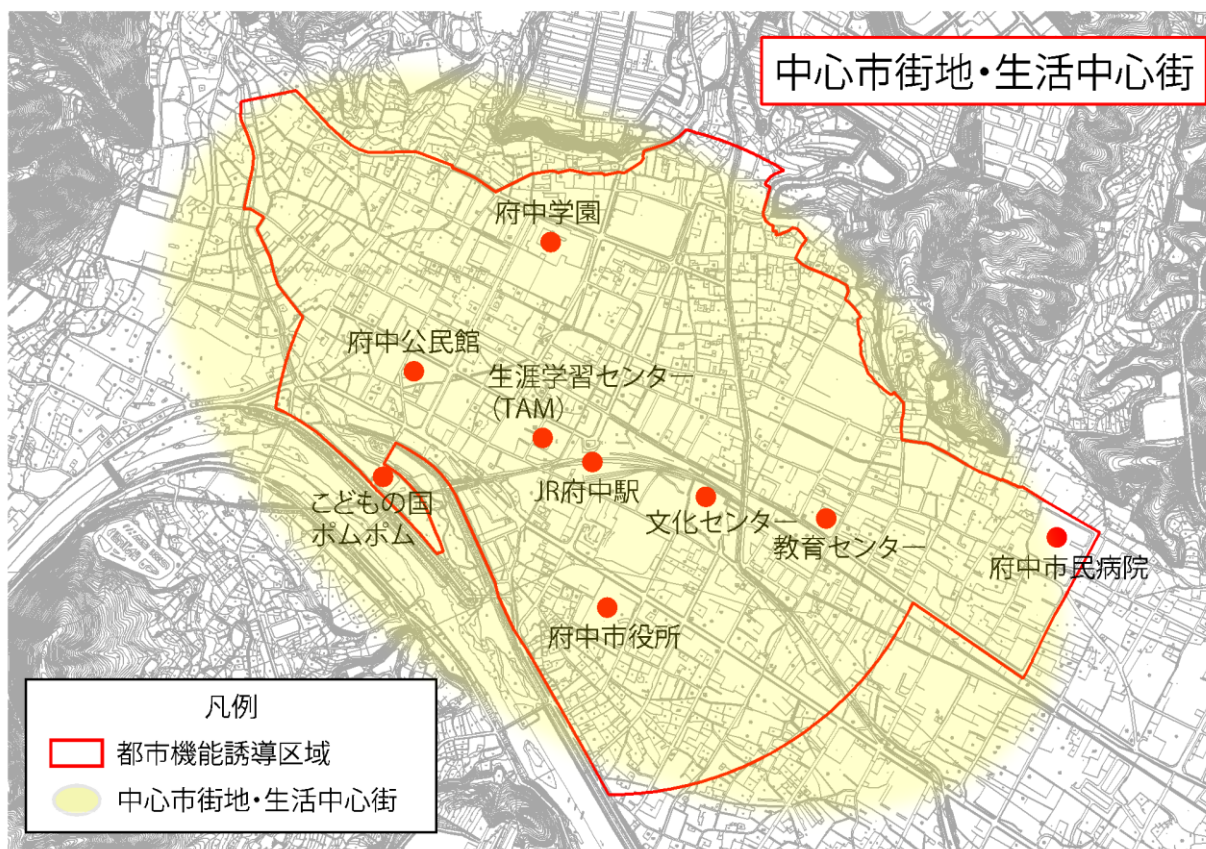
- ・民間の自由な発想や取組を積極的に行政が支えることで、まちの課題解決や中心市街地での新たな価値を生み出し、地域の価値を向上します。官民が一体となり多様な取組を展開できる組織づくりに加え、ハード事業・ソフト事業を総合的・戦略的に展開することを目指します。

来て良し！住んで良し！の府中 ～新たな価値の創造～

- ・誰もが快適に暮らせる魅力あるコンパクトなまちづくりを進めることで、職住遊近接で仕事と趣味などのプライベートを両立させるとともに、幸せや豊かさを感じ、誇りを持ち、将来にわたって暮らしたいと思えるまちを目指します。また、市外の人にも魅力を感じてもらい、本市に来てもらうとともに、“住んでみたい”と思えるまちを目指します。
- ・市民と来街者、若い世代と高齢者など、多世代が交流する活力のあるまちづくりを展開することを目指します。

1. 3 グランドデザインが対象とする区域

本グランドデザインは、これまでの市街地形成の過程や都市機能の集積状況等を踏まえ、全市民が本市の社会・経済の中心として共通認識し、全市域に波及的効果をもたらす価値の高い区域を中心市街地・生活中心街と呼び、以下のとおり対象区域とします。



※中心市街地・生活中心街は、立地適正化計画の「都市機能誘導区域」と概ね同じ区域ですが、その周辺の自然等、魅力的なまちなかの資源を含めた範囲（黄色網掛け部分）も対象区域に含みます。

1. 4 グランドデザインで展開される『つながり』

中心市街地・生活中心街は、全市域に波及的効果をもたらす価値の高い区域であることから、府中市内や周辺都市等へ広域的な「つながり」を持たせることが重要です。

「つながり」には、大きく「人の移動」によるつながり、「情報」によるつながりという2つのつながりが考えられます。

■「人の移動」によるつながり

道路・公共交通を介した「人の移動」によるつながりを示します。

【府中市内で見えるつながり】

- ・生活の下支えとなり暮らしを楽しむ中心部と周辺部とのつながり

【広域的に見るつながり】

- ・周辺都市、全国、世界とのつながり
- ・関係人口によるつながり
- ・広域アクセスによる産業のつながり

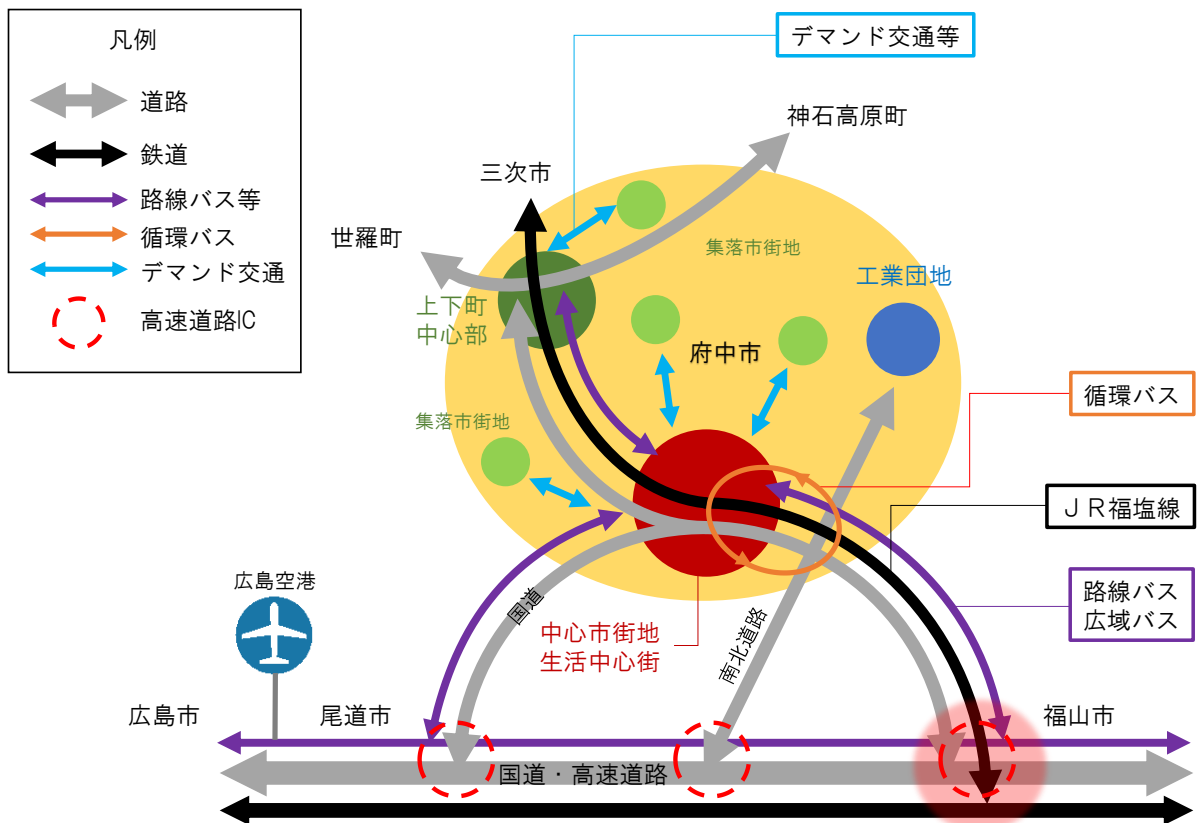


図 道路・公共交通等による市内・広域的「つながり」の構造イメージ

【出典】府中市立地適正化計画(H29.3)をもとに加工

息子(高校生)

府中市から福山市までJRで約40分、尾道松江線の尾道北ICまで車で約15分、広島空港も車で約50分で行けるんだね。

母(40代)

そうよ、府中市で日常生活を送るのは結構便利なのよ。

父(50代)

そうだな、これからもっと便利で快適になるように道路などのインフラ整備が進むといいな。

■「情報」によるつながり

ウィズコロナ社会においては、大都市の喧騒から離れて、自然・文化をゆったりと楽しみながら働く暮らし方が求められる社会にシフトしていくものと想定されます。そのため、ICT活用による情報発信やシティープロモーション等を行うことで、府中市内だけでなく、周辺都市、全国、世界へと「情報」によりつながる社会を目指し、物理的な移動を伴わない「情報」による交流や、これまでは想定されなかったビジネスの創出・発展、新たな生活スタイルへの転換等も想定されます。

【府中市内で見えるつながり】

- ・暮らしが便利で快適になる
- 中心部と周辺部とのつながり

【広域的に見るつながり】

- ・周辺都市、全国、世界とのつながり
- ・物理的な移動を伴わないつながり

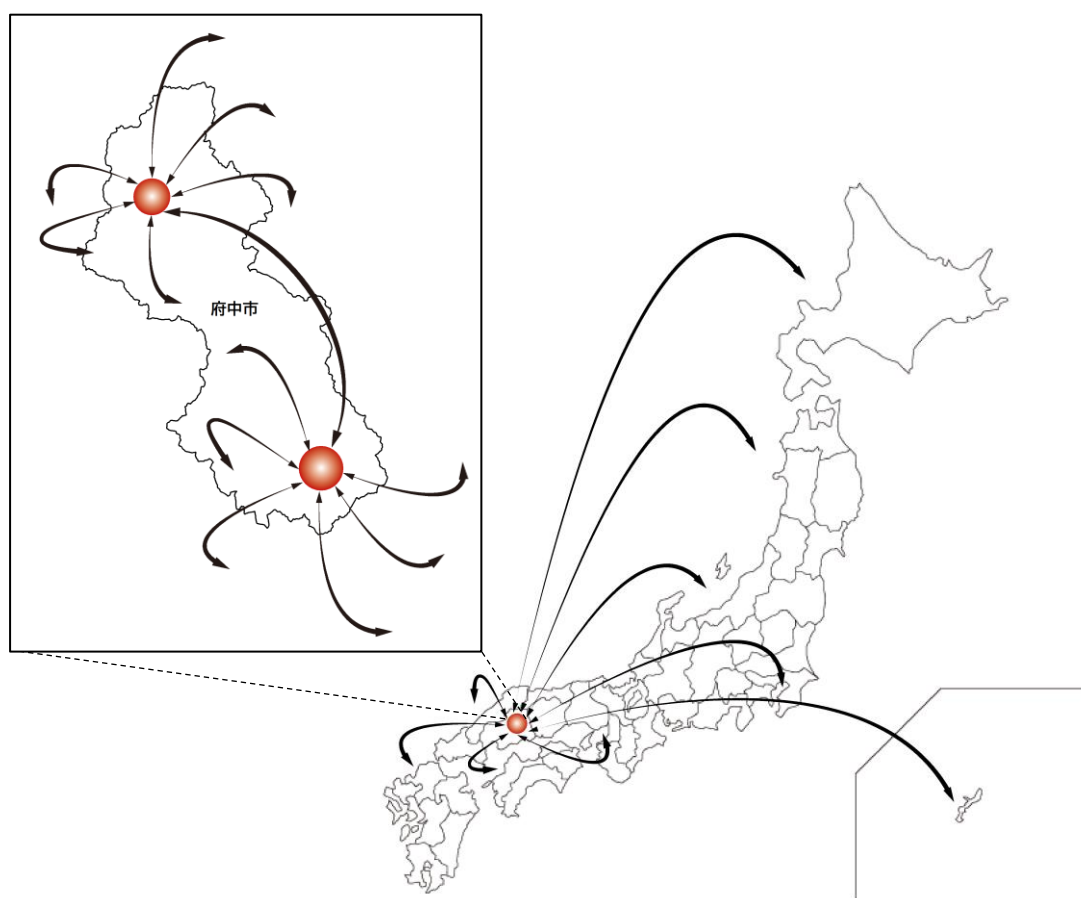


図 情報による市内・広域的「つながり」の構造イメージ

〔「人の移動」及び「情報」のつながりによるまちなか機能の享受に向けて〕

中心市街地・生活中心街に住んでいる人だけが、日常生活の中で恩恵を享受するのではなく、市内のどこに住んでいる人も、市外から府中市に関わる人々も、まちなかの機能を使い、楽しんで過ごす、そんな『つながり』を作っていきます。

1. 5 目標年次

グランドデザインは、概ね 20～30 年後の中心市街地・生活中心街の姿を描きます。下表に示す関連計画と連動して取組み、観光交流や産業振興、市民の暮らしなどの個別テーマは、関連計画に位置づけて取組みます。関連計画は、社会経済情勢の変化に対応しつつ、グランドデザインの内容を踏まえ、適宜、改定します。

■関連計画の目標期間

			H27 2015			R2 2020			R7 2025			R12 2030			R17 2035			R22 2040			R32 2050							
府中市総合計画			第4次			第5次						計画の改定																
府中市グランドデザイン																												
中心市街地活性化基本計画			第2期																									
都市再生整備計画			第2期			第3期			第4期			実現に向けた整備																
府中市都市計画マスタープラン															計画の改定													
府中市立地適正化計画						防災指針等見直し														計画の改定								
府中市産業振興ビジョン																				計画の改定								
府中市観光振興ビジョン																				計画の改定								



息子(高校生)

「人の移動」によるつながりと「情報」によるつながりのイメージを読んだけど、ヒト・モノ・情報が集積して便利になるし、生活中心街・中心市街地だけでなく府中市全体がよくなっていくんだね。

そうだね、中心市街地・生活中心街が活性化していけば、府中市全体を支えられるほど、波及してよくなるってことだね。



母(40代)



父(50代)

府中市民だけでなく、来街者にとっても効果が大きいことだからなあ。ただ、目標年次を見ても、中長期的に取り組んでいくことが大事であることがわかるな。他の計画と連携しながらやっていかないといけないんだな。

